



こんにちは、 日本共産党井上けんじです

日本共産党南地区委員会 5371-9164 自宅 5(FAX 兼用) 6 9 1 - 3 3 2 3

日本共産党京都市会議員団 5 2 2 2 - 3 7 2 8 FAX 211-2130 '14年 8月 24日号

市会議員団ホームページ <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/cpgkyoto/> E-mail cpgkyoto@mbox.kyoto-inet.or.jp

8月16日、大雨の降っている南区内を見て回りました。写真は雨の合間の桂川久世橋東詰にて。18日の市会委員会で井上議員は、京北など上流に降った雨が何時間後に、南区など下流にどんな影響が及ぶか等の情報をもっと明らかにと求めました。



市長が2013年度の京都市の決算概要を発表、これについて、8月18日の市会委員会で井上議員が質問。要旨を紹介します。

●井上質問「黒字なのに「厳しい財政」とは。どう理解すればいいのか。」
○市幹部答弁「「行財政改革」の努力の結果、辛うじて黒字に。」

「国の取組みに歩調を合わせ」た財政運営では京都も破滅だ

「財政危機打開へ理詰での対政府要求運動を」と、積極的建設的提案」井上議員

財政危機打開への真剣な努力抜きに、市民に「お金がない」と言うべきではない



切り捨てへの布石だ。
○引き続き「改革」と人員削減をすすめていく。
●国から京都への交付金が減らされている。
○それはご指摘の通り。
●ところが「国で削減の議論がある」「楽観できない」等と全く傍観者的だ。政府に弱腰の一方で市民に「財政危機」を押しつけるべきでない。
○政府に増額を要求。
●ツメが甘い。市の資料で「法人税引下げで市への法人市民税が減るおそれがある」とのこと。これは従来から私も指摘してきた(※)。ここでも弱腰だ。政府の法人税減税等の動きにもっと批判的な声を挙げよ。法人市民税減収への影響は？
○影響は不明。
●市の財政を厳しくする政府のやり方になぜ黙っ

'13年度京都市決算の概要(市の言い分)

- ◎一般会計は20億円の黒字
- ◎財政は厳しい。一般財源収入は落ち込んだまま推移している。
- ◎市税徴収率は向上。
- ◎職員数・人件費を着実に削減。
- ◎市の財政基盤はぜい弱。
- ◎それを補うのが、国から自治体への地方交付税交付金であるが、京都ではこれが減らされている。
- ※国税である法人税が値下げされると、この税額が元になっている、市税である法人市民税も減るおそれがある(井上の議員の考えでは「おそれ」ではなく、実際に減る)。
- ◎今後、税収アップをめざし、国の取組みに歩調を合わせて京都経済の振興に取り組んでいく(井上議員の考えではこれは?)

ているのか。「国の取組みに歩調を合わせ」との市の方針だが、これは、大企業減税と消費税増税、格差拡大の道。市民生活の向上と中小零細企業の底上げの視点抜きで、は京都経済の再生、担税力強化もありえない。
○国の予算を使って補正等を組んできた。
●国は大企業減税の穴埋めに中小企業への外形標準課税導入の方針。中小企業支援と逆行だ。
○もう少し様子を見る。
●そういう言い方自身が私の言う甘さの表れだ。

自民・公明・民主・京都の各党が 集団的自衛権容認の閣議決定に「賛成」

18日の市会委員会で、「集団的自衛権行使を認める閣議決定の撤回を求める意見書を京都市会として提出されたい」との請願について、自民・公明・民主・京都の各党が、こぞって「不採択」としました。要するに内閣の方針に賛成というのです。「採択」を主張したのは日本共産党だけでした。オール与党と日本共産党との違いが浮き彫りになりました。
戦争への道を許すな、平和憲法を守ろうとの声と世論を広げましょう。